

学びへのまなざし

通級指導教室での子ども達との学びを通して
感じた子育てのエッセンスを不定期ではあります
が紹介していきたいと思います。

京都市立神川中学校 通級指導教室

担当 玉置宣子

通常の学校生活が再開されて1ヶ月半が経ちました。踏ん張るには厳しい季節ですが、子ども達は皆、本当に頑張っています。通級指導教室での学びも始まりました。それぞれ目標を決め、意欲をもって課題に挑戦しています。

思春期の子どもと向き合うとき

それでも時には、思春期にありがちな姿を見せる子ども達。そんな子どもの行動を調整したい時、言い聞かせたり、手伝ったり、押したり引いたりと、色々試行錯誤しますよね。そんなときに、試してみたい方法をいくつか紹介します。

外在化

子ども一人ひとりはみんな「頑張りたい」「勉強が出来るようになりたい」と思っています。でも出来ないのは、自分の中にいる“何者か”が悪魔のささやきをするからです。その“何者か”を一緒に特定し、そこをターゲットにして、名前をつけたりして客観視し、改善を図るのが「外在化」です。例えば、イライラには“怒り虫”，ついダラダラしてしまうなら“ダラけっち”とか…。悪いのはその“何者か”であって、子ども自身ではありません。「また怒り虫が出てきたな。どんな時に出てくるのかな?」と言った具合です。子どもと対面して、子ども自身を否定するのではなく、子どもの課題に同じ目線で向き合うことで、お互いに新しい視点で問題解決に挑めます。そしてそれは、同じように、頑張っている自分への気づきにもつながります。これは「ナラティブセラピー」という心理療法で使われている方法です。



理由づけ

子どもの失敗は、未経験からくる場合が多いはずです。知らずにやらかしたことを頭から否定されると、大人でも凹みます。なのに大人はつい、子どもの失敗や間違い、ルールやマナー違反に対し、出来ていないことのみを指摘しがちです。そうではなく、できれば「知らなかったんやと思うけど…」と前置きするだけで、出来なかったのは“知らなかったから”と理由づけが出来、それだけで子どもの気持ちはずいぶん楽になり、こちらの指摘を素直に受け入れができるはずです。もしかしたら知っていたかも？と思う時でも、大人がちょっと譲ってあげてもいいのではないかでしょうか。逆に、アドバイスするときに「あなたも分っている通り…」との前置きも効果的です。子どものプライドを傷つけない心配りですね。

笑顔

そして何より効果的なのは、やっぱり笑顔です。大人は知らず知らず、心身の疲れや日々のストレスで、つい眉間にしわを寄せた顔つきで子どもに向かっています。ひどい時には子どもに当たり散らしたりしてしまい、反省しきりです。日々の大変な生活の中ではありますが、出来れば意識をして、1日1回は子どもに向き合い、笑顔を見せてあげたいものです。ニッコリ微笑んで語り掛けた言葉は、子どもの心に優しく届くのではないでしょうか。



思春期の子ども達とのやり取りは、大人からの一方的な言い聞かせでは上手くはいかないことが多いですよね。子ども達の心に寄り添い、丁寧に関わっていきたいものです。

通級指導教室に関するご質問やご相談は、学級担任もしくは
通級指導担当の玉置までお問い合わせください。